

学校番号	3展水01	平成28年度 実践事例報告書様式6	
学校名	宮城県水産高等学校	担当教員/ 教授名	油谷弘毅
学校情報	所在地：宮城県石巻市宇田川町1-24 TEL：0225-24-0404、FAX：0225-24-1239、URL：http://miyagisuisan.myswan.ne.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法(○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成(学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他()

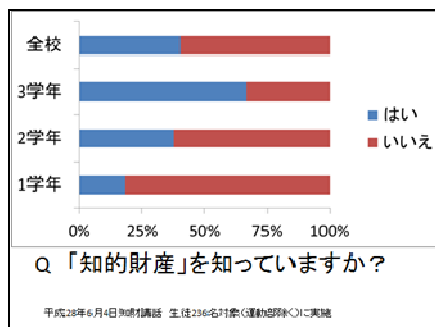
タイトル 目的・目標要約	学校全体で取り組む、宮城水産高らしい知財学習。知財の力で地域復興加速！
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>①全校生徒を対象に、発想訓練を実施し「考えること、創造すること」のハードルを下げる。</p> <p>②各科目で知財に触れる学習を展開し産業や生活の中の知財を身近なものにする。</p> <p>③先行して学習しているコース(学科・類型)、および部活動では一歩掘り下げ、ものづくりや商品開発に挑戦する。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>東日本大震災から6年が過ぎようとしているが、地域の復興は道半ばである。水産高校はこのような状況でも特徴ある専門教育を展開し、地域に貢献できる人材を輩出していなければならない。本事業を通じて自ら考え行動し、具現化できる力を育成するためにエントリーした展開型の取組は今年度、最終年となった。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>①学校行事「知財講話」の実施</p> <p>全校生徒を対象に展開した。内容は継続性と定着を図るため「クラスTシャツを作る際に注意すべき点」について著作権や商標権、意匠権にも触れて講話を3年間実施した。この際、デザインと印象についても触れた。併せて、校内紙タワーコンテストを実施し、全校生徒に対して発想訓練を展開した。</p> <p>②成果物を通じた「掘り下げた知財学習」(フードビジネス類型の事例)</p> <p>フードビジネス類型の学校設定科目「商品開発と知的財産」の導入・展開が2年目となった。2年次では、マインドマップやチェックリスト法、KJ法などの発想法の習得と商品とそこに含まれる知財、開発アイデアについての理解を図った。履修2年目の3年生では昨年度からの取組の成果物や課題研究で開発しているモノと市販品の比較を通じて商標の理解を中心に学習を展開した。この中で、開発商品の商標考案ではJ-Plat Patを活用した商標調査を行い、権利侵害の問題と保護・活用の重要性を理解させた。</p> <p>③一歩掘り下げた活動 (フードビジネス類型の事例)</p> <p>フードビジネス類型課題研究では、地域の水産物で深刻な問題を抱えている「ホヤ」の消費・販路拡大について活動を進めてきた。その中で開発されたホヤのおにぎりは、企業と連携しながらホンモノの「商品」へとブラッシュアップを図った。イベントでの試食アンケートとその分析、そして改善策の構築、企業へのプレゼンテーションと不採用も経験し、改めて商品化の難しさから産業について活きた理解を進めることが生徒だけで無く教員も行えた。</p> <p>得られた成果は、様々な機会に発表し、多くの評価を得ながら、さらなるブラ</p>

ツッシュアップにつなげた。

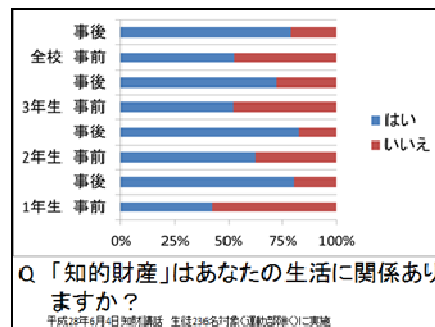
①知財講話の効果：校内における『知財』の認識度は年々上がる！

知財は特別なモノではなく、身近に存在し、生活に密着し、さらに産業社会を支えているということをつまみシャツ作成を題材に3年間継続して講話を実施した。その結果、知的財産というモノの認識度は学年進行で上がり、生徒の知識として定借していることが分かった(図1)。

また、知財が自らの生活に関係があるかとの問には、全学年とも講話の後に、知財と生活すなわち、産業が関連しているという認識が増した(図2)。ここから、継続した知財基礎講話が知財マインドの醸成の基礎になることが分かった。



(図1)



(図2)

②J-Plat pat の活用から商標の意味を知る。

フードビジネス類型3年の「商品開発と知的財産」の授業において、商標の考案と保護を扱った。そこで、実際に生徒に J-Plat pat を用いて検索を行わせ、考案したものの登録状況を調査させた。あわせて、身の回りにある商品について検索させた。特に、生徒が自主的に行った人気アニメキャラクターの検索(ほぼ全てのキャラクターが登録済み)を通じて商標の創造・保護・活用について理解が深まった様子が見られた(図3)。



(図3)

③全国産フェア知財学習成果発表会で「優秀活用力賞」！

学習成果発表会 in 全国さんフェア石川大会において地元企業と連携して活動してきた「伊達なホヤむすびTM大作戦」が優秀活用力賞を受賞した(図4)。ここで活躍した生徒はものづくりから知財の創造・保護・活用を学ぶことで、その楽しさを感じ、成果を自らの言葉で伝えることができるようになった。参加した3人はいずれも地域企業へ就職が内定した。また、3年生の多くが水産関連産業に進路を決定した。



(図4)

彼らのチカラで東日本大震災からの復興が加速することを期待したい。

成 果

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	2展水01	平成28年度 実践事例報告書様式6	
学校名	愛媛県立宇和島水産高等学校	担当教員/ 教授名	鈴木 康夫
学校情報	所在地：愛媛県宇和島市明倫町1丁目2番20号 TEL：0895-22-6575、FAX：0895-25-0791、URL：http://uwajimasuisan-h.esnet.ed.jp/cms/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） <input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） <input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input type="radio"/> d) 著作権 <input type="radio"/> e) 種苗 <input type="radio"/> f) その他（ ）

タイトル 目的・目標要約	新製品の開発を通して知財を学ぶ～校内外連携を通じた実践力の育成～
目的・目標 ・取組の背景	<p>（目的・目標） 校内の知財学習体制の強化 校内の学科間連携の強化 他校種との連携による幅の広い考え方ができる人間の育成 知財マインドを生かした産学官連携 産学官言連携での知財権学習</p> <hr/> <p>（取組の背景） 本校では産学官連携や地域連携を通して生徒の育成を行っている。これらの取組に知財マインドを入れることでより質の高い教育をめざすために展開する。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○校内知財学習体制の強化 展開型1年目の昨年度、知財を取り入れた教員は32%であったが、本年度は42%（水産科教員19人中8人）と若干であるが増加した。その原因として、先進校視察や公開授業で知財学習を取り入れるなど、今まで知財を取り扱ったことのない教員が知財に触れる機会を作ったことから若干ではあるが増加したと考えられる。また、目標としていた学期毎の授業公開等での知財を取り入れた授業も行っている。ただ、宇和島水産高校版「知財教育実践事例集」としての整理はできていない。</p> <p>○校内の学科間連携の強化 校内の水産クラブ内に昨年度知財学習生徒委員会を設置した。本年度は、海洋工学科E科コース（主にエンジンや機械を扱う学科）と水産食品科が連携をして知財学習を行った。お互いの科の科目「課題研究」で連携のできる取組、「移動式石窯を使った愛媛県産魚のPR」という目的で活動を行った。過去の知財事業でEコースが作った石窯は重さが1トンあり、移動させるのが非常に困難で、イベント等で使用することが非常に難しかった。そこで、「女子でも簡単に運べる石窯作り」をコンセプトに、石窯を作り、女子生徒の多い水産食品科の生徒が県産魚PRに利用した。</p> <p>○他校種との連携による幅広い考え方ができる人間の育成 本年度は、デザイン科、農業科を持つ高校と連携を行った。デザイン科を持つ愛媛県立松山南高等学校砥部分校とは一昨年度より連携を行っており、本校で開発した製品のパッケージデザインの考案を担当していただいている。連携はしたものの、今年度は作品としてはできあがらなかった。ただ、知財実践校ではない学校と連携することにより、知財マインドの普及につながり、異校種の良い考え方をお互いに理解できた。</p> <p>また、愛媛県下の農業科を持つ高校5校と共同で高校生ワンプレートランチの開発を行った。これは、愛媛県主催の「いやしの南予博」の一環で行われたもので、当初教員主導で生徒たちのディスカッションなしに行おうとしていたが、本校の提案で、生徒たちの発想を生かしたものにして、生徒同士で話し合っ作り上げていった。開発はそれぞれの学校で行ったが、コンセプトの共有など</p>

	<p>他校の生徒と話し合うことのできる良い機会となった。</p> <p>○知財マインドを生かした産学官言連携</p> <p>科目「課題研究」において地元の水産会社と連携をした新しい製品開発を行っている。その一つとして、愛媛県水産研究センター、愛媛大学農学部、地域の飲食店の協力の下、愛媛県の新養殖魚種「スマ」の未利用資源であるアラを利用した「スマイルラーメン」を開発した。未利用資源の利用は地域の課題であり、スマは愛媛県が売り出そうとしている新養殖魚で、その未利用資源に目をつけて生徒が新製品の開発を行った。その経緯を地元新聞である愛媛新聞に掲載していただき、イベントでの出店につながり、知財学習をする機会が広がった。</p> <p>愛媛県産魚PR活動のために全国でマグロ解体ショーを行っているフィッシュガールは、本年度愛媛県産魚を海外へ売り込むためにシンガポールでマグロ解体実演販売を行った。その他にもPR活動をよりよいものにするためにアイデア創出をし様々なことに取り組んでいる。愛媛県産魚PR活動の一環として、マダイのアラとカマを利用したレトルトカレーの開発を行った。製品は松山空港やえひめまつりや産業まつり等で販売し地元メディアの協力もあって多くの繋がりを生んだ。</p>
<p>成 果</p>	<p>校内の学科間連携では、生徒同士がいろいろなアイデアを出し合うことで、ニーズに合った新製品作りをするためのディスカッションの場が増加した。</p> <p>他校種の連携では、県内農業高校とのワンプレートランチにおいて、ディスカッション経験の少ない他校をリードして自由な発想で発言し、他校生徒の考えを引き出していったことなど、知財学習でおこなったグループワークの成果が見えた。</p> <p>産学官言連携では、地域のメディアが産学官連携を積極的に取り上げることで、新しい機会が生まれ、知財学習をする場が広がった。また、知財実践校となって取り組み始めた愛媛県産魚PR活動は、本年度全国放送に7回取り上げられた。これは、生徒がPRするために様々な工夫を行い発展させた結果で、本校生徒の進路拡大や地域経済にも非常に良い影響を与えている。</p> <p>また、愛媛県産魚PRのために開発したレトルトカレーの名称考案にはJ-PlatPatを活用し、生徒が考えた名称がすでに商標登録されており、弁理士のアドバイスをうけながら名称変更を行うなど、知財権に関する学習も行い、商標登録について生徒が学ぶ良い機会になった。この事例を他の生徒にも紹介することによって生徒は知財権を身近に学習することができた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



鯛媛カレーは地域の企業の支援を受けながら生徒が未利用資源の利用と愛媛県産魚PRの目的で開発した製品。普段水産加工場では処分されるマダイのアラを利用し、マダイのカマに価値をつけるためにレトルトカレーとして開発。女子生徒らしく健康志向についても考え、カマは骨まだ食べられカルシウムたっぷりの製品を作り、デザインや名称なども考案した。知財権の商標や意匠についての学習やどのようにすれば消費者に売れやすいかなど、一つの製品を開発することにより様々な事が学習できました。何よりも、生徒が目指していた愛媛県をPRできる製品作りに成功した一品です



学校番号	水 0 1		
学校名	秋田県立男鹿海洋高等学校	担当教員/ 教授名	大高 英俊
学校情報	所在地：秋田県男鹿市船川港南平沢字大畑 42 TEL：0185-23-2321、FAX：0185-23-2322、URL：http://www.kaiyou-h.akita-pref.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	ものづくりを主体とした研究活動に取り組み、 知的財産権の取得を視野に入れた学習の実施
目的・目標 ・取組の背景	(目的・目標) ・知的財産権の学習体制の構築 ・ものづくりを通じて知的財産権を学び、地域に必要なとされる製品の開発を目指す ----- (取組の背景) 課題研究や総合実習において、生徒がものづくりの取り組みをしている。 今年度は、地域企業と連携を行い、知財学習を活用した商品開発やものづくりを実施。地域の産業に貢献できる人材を育成する観点から知的財産権の学習を推進した。
活動の経過 (知財との関連)	① 知財学習の研究授業を実施 (写真 1・2) 研究授業を水産科・商業科の職員を中心に実施した。近隣の中学校の先生方も授業参観を行った。授業終了後の研修会では知財学習の指導方法や産業財産権指導カリキュラムと指導マニュアルについて協議を行った。今後は、授業で使用したプレゼン・配布プリント等を他の職員が利用できるように計画する。 ② 各種コンクールへ応募 (写真 3) ・東洋水産の東北地区「アイディアコンテスト」に応募 3 チーム ・シーフード料理コンテストに応募 1 チーム ③ BS 法・KJ 法や J-PlatPat を利用した検索活動 (写真 4) アイディア創出法 (BS・KJ 法等) を活用して、身近な課題を解決する学習機会の提供することで、生徒自身がアイディアを出し、発表する態度が身についた。また、積極的に考え、アイディアを形にしていこうと粘り強く研究に取り組む姿勢が身についた。 ④ 地域企業との連携 (写真 5・6・7) 地域の課題を高校生が解決する。地域企業【三和興業グループ：有限会社台島大謀】と連携した新商品開発を実施。男鹿沖で漁獲される「イナダ (ブリの幼魚)」を利用した缶詰製品の開発を行った。秋田県産業教育フェア・全国水産高等学校生徒研究発表東北地区大会・地元新聞社主催の地域活性化高校生選手権などで発表をすることができた。
成 果	研究授業では、知財学習の演習を取り入れることで、多くの教職員に知財の重要性が周知された。また、指導方法や今後の知財学習の方向性などを話し合うことができた。今後も全校での取り組みを推進していく体制が整いつつある。 生徒に様々なアイディアを創出させ、そのアイディアを生かし、水産物を有効活用していく研究活動を行った。また、生徒から出されたアイディアを活かし、知財を視野に入れた研究活動を指導する人材が増えた。今後は、他校との連携を目標に秋田県内での知財学習の推進を目指して活動を実施していきたいと考えている。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1：知財学習に関する研究授業



写真2：知財学習に関する研究授業



写真3：コンテスト応募への道

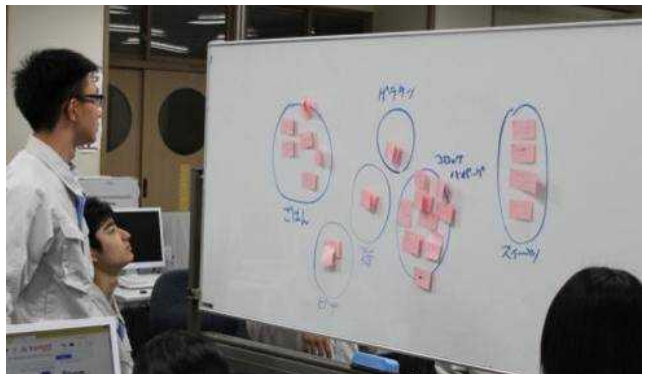


写真4：アイデア創出法の授業



写真5：地元企業との話し合い



写真6：イナダの商品開発



写真7：完成した缶詰製品

化学調味料に頼らない製品作り

本校では、魚肉練製品を製造している。「かまぼこ」は、魚のすり身に食塩や砂糖、卵白等を混ぜ加熱することで歯ごたえのある「かまぼこ」が完成する。話し合いで、本校の魚肉練り製品は、「化学調味料」を使っているが、「天然の調味料」は使えないのかという質問から研究活動へ。


★疑問を解決へ

地元企業、「諸井醸造所」に「かまぼこ」に合う調味料を求め、社長と相談、天然の調味料を生かせるアイデアをいただき、現在研究を続けています。今後も地域企業と連携を行い、新製品の開発に取り組む予定です。



学校番号	水 0 2		
学校名	大分県立津久見高等学校海洋科学学校	担当教員/ 教授名	中村 晋太郎
学校情報	所在地：大分県臼杵市大字諏訪 2 5 4 - 1 - 2 TEL：0972-63-3678、FAX：0972-63-3679、URL：http://kou.oita-ed.jp/kaiyoukagaku/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	6次産業化に対応できる職業人として必要な知的財産に関する学習	
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水産業振興につながる知的財産権について学ぶ ○地域と連携した発案、開発等の実践を通じた地域振興をめざす ○6次産業化に対応できる職業人として必要な知的財産に関する知識を深める <p>(取組の背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水産振興のための商品開発等で地域に貢献し、学校が地域に愛され、地元で活躍する人材を育成するため。 	
活動の経過 (知財との関連)	<ol style="list-style-type: none"> 標準テキストと海洋情報技術の教科書を使用して、知的財産権の理解と基礎知識の定着を目指して指導した。 チームワーク育成、アイデア創造学習としてペーパータワーを実施した。 集団で発想、発案の練習を行い (KJ法)、新製品開発や新技術の習得に利用した。 各種コンテスト・イベントへの参加を実施した。 地元ブランド「かぼすぶり」「タチウオ」を用いた新製品の開発を行った。 地域交流会に参加した。 地元企業担当者から商品開発の講義を受けた。 地元のイベントで無料試食を行った。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度にこの事業を採択させていただき、多くのことを学び本校実習製品の商標登録を行うことになりました。平成 27 年 2 月に申請し、5 月に商標登録をすることができ、自信をもって実習製品を販売することができました。それから、地元企業にご案内をして、「おさかな小判」の商標を使用させていただくための案内会・認定会を開催し、地元企業 2 社が認定を受けている。 臼杵市役所、大分県漁協臼杵支店、臼杵市給食センターと協力して、地元産の「タチウオ」を利用したすり身コロッケの試作を重ね、完成させ、臼杵市の小・中学生の給食で本校の実習製品を提供した。 地元商店街で商品の無料配布が実現した。今後の商品化を目指している。 地元企業の商品開発担当者より商品開発の講義を受け、商品開発の難しさなど多くのことを学ぶことができた。 	 <p>商標登録したもの</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

地域交流会参加

地産地消コンテスト応募

うまいもん甲子園応募



商品無料配布 I



商品無料配布 II



給食用すり身コロッケ製造 I
(外部講師)



給食用すり身コロッケ製造 II
(小学校説明)



地元企業担当者商品開発 I



地元企業担当者商品開発 II



〔知財教育の必要性〕

3年目の取組を振り返り、大きな成果とこれからの課題がみえてきました。今年度、地元企業商品開発担当者より、講義を開催していただきました。商品開発のエピソードや味覚チェックなど学校では学べない多くのことを教えていただきました。さらに、新商品としてマグロ汁を無料で配布することができ、地域の皆さんに喜ばれた活動と思えました。知財教育3年目の3年生の課題研究では、自ら行動を起こし、アイデアを生み出そうとする様子が感じ取れるようになりました。この主体的な3年生から下級生へと継続的に教育活動を繋げるため、より多くの教職員が「知財マインド」をもって指導できることを目指す必要があります。今後、研究会へ積極参加していただき、知的財産に関する取組を通して学校力を向上させ、地域や産業を支援する活動の中で生徒の生きる力の育成に努めてまいりたいと考えます。

学校番号	水 0 3		
学校名	鹿児島県立鹿児島水産高等学校	担当教員/ 教授名	町頭 芳朗
学校情報	所在地：鹿児島県枕崎市板敷南町 6 5 0 TEL0993-76-2111, FAX : 0993-76-2112 URL : http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kagoshima-F/#		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 <input checked="" type="radio"/> e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	「水産生物の飼育技術や食品加工における知的財産権等に関する学習」
目的・目標 ・取組の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培工学コース 2, 3 年生は, 平成 27 年度に続き, チョウザメをはじめとする魚類を継続飼育する技術を確立し, その過程における製作物やアイデアに対して発生する産業財産権, すなわち特許権や実用新案, 意匠権, 商標権について理解と学習を深めることを目的とする。 ・1 年生は, この学習を全学科で取り組むための第 1 段階として, これまでの経緯も含めて知的財産権の基本について学習する。 ・平成 2 3 年度から実施してきたダイビング器材を使用した導入授業については工夫 (メーカーの営業担当者に説明してもらう等) を加えて継続して実施した。また「ブレスト」「KJ 法」を使用したマインドマップ作りについても例年以上に多用した。 ・知財プラットフォーム活用については, 他学科 (情報通信科) との連携をはかった。
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年生 (全学科) においては科目「水産海洋基礎」の中で知的財産権の基本について学習した。具体的には単元「水産業と海洋関連産業」の中で担当者による講義や実習等を計画した。 ・昨年度に続き, キャビアの作出・加工に成功した。これのネーミングやパッケージデザインを学習する過程で知財学習は楽しいということを生徒が理解するという成果が見られた。また, キャビアをどのようなかたちで地域に提供していけばいいか, 生徒中心にアイデアを出し合った。 ・名前募集に関しては募集枠を全校, 校外へと拡大し, さらに他学科生徒の参加やアドバイス等, 科・コースから全体での取組の基礎とすることができた。 ・アイデア募集から様々な機材を製作した。この作品は, 従来のものとどこが違うのか? もし申請するならどこに付加価値を見いだすか? 生徒に考えさせるようにした。ただ作るだけの実習ではなく, アイデアを形にして, それをどのようにして権利化するか考えることで知財についての意識を高めることができた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権に関する教育を推進していくことで, 魚類飼育に対する興味・関心を引き出すことができた。また, このことを将来の進路指導に生かす機会とした。 ・チョウザメについては, 本事業を通して得たデータと経験を生かし飼育を継続し, キャビアの製造・加工に成功した。併せて知的財産権についての理解と活用についての学習を深めることができた。将来は種苗生産技術の確立を目指したい。 ・他にも, 実験・実習, 日常生活において, 数え切れない創意工夫が見られた。これらに対して, 適切なアドバイスを行うことで, 生徒の可能性を伸ばすことにつながった。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



飼育中のチョウザメを穿刺して卵を採取し、茹でた卵を切って成熟度を判別する



キャビアを乾燥（0℃で0日間）させた後、計量・瓶詰めし、熟成（0℃で0日間）する



低温殺菌（0℃で0分間）させることでキャビアが完成！ 名前募集の結果「黒珠玉」

ここではキャビアの作出・加工について報告したが、実際にはここに至るまでに様々な試行錯誤と失敗があり、その中で知的財産に関する学習を深めることができた。飼育に関する資機材の開発といった、いわゆる「ものづくり」を中心としてやってきたが、知財教育と並行してやってきたからこそ、一連の活動を評価をすることができた。特に、今年度取り組んだネーミングやパッケージデザインに関する学習については、弁理士からの助言で、大きく前進することができた。御協力・御助言いただいた関係諸氏に感謝する。